

# バルセロナ日本人学校における特色ある教育活動

前バルセロナ日本人学校 教諭

兵庫県川西市立明峰小学校 教諭 小 西 宏 典

キーワード：在外教育施設、バルセロナ、現地校交流

## 1. はじめに

バルセロナは、地中海沿岸に位置する港湾都市で、フランスとの国境であるピレネー山脈の南に位置し、人口約160万人の都市である。

夏は乾燥し、冬は温暖で湿度のある地中海性気候であり、とても過ごしやすい気候である。また、雨も少ない。14世紀に建設された城塞を起源とする旧市街と、1859年の大拡張計画によって建設された碁盤の目のように正方形の街区が並ぶ新市街からなり、サグラダ・ファミリア教会、グエル邸、グエル公園など、アントニ・ガウディの残した建築物が多い。

1992年にはバルセロナオリンピックが開催された。

日本からスペインへの最初の公式使節である支倉常長率いる慶長遣欧使節団の派遣から400周年を記念して2013年から2014年にかけて、「日本スペイン交流400年」事業が行われた。

バルセロナ日本人学校は、1986年4月1日にバルセロナ日本文化財団により設立された。当初は小学部と中学部のみであったが、2011年に幼稚部を新規に設置した。バルセロナ中心部から10kmほど北の Sant Cugat del Valles に位置するため、バルセロナ市内に居住する児童生徒はスクールバスを利用して通学している。

「自ら学び、心豊かで、たくましい子どもの育成を図る」を教育目標とし、少人数学級を生かしたきめ細かい指導を行っている。スペイン語や英語を学習することで、その言語について理解するだけでなく、その国の生活や文化についても理解することをねらいとして、スペイン語活動（低学年は週2時間、高学年は週1時間）、英語活動（3年生以上で週1時間ずつ）の授業が現地採用教員により行われている。また、現地校との交流会や校外学習、宿泊・遠足的行事をはじめとした様々な場面で日頃の学習成果を生かして人間関係の構築をはかることもできる。

## 2. 特色ある教育活動

### (1) ヌリア自然教室（2014年6月）

バルセロナ日本人学校小学部高学年は、毎年、フランスとの国境近く、ピレネー山脈の麓にあるヌリア渓谷にて2泊3日の自然教室を行っている。活動内容は、カヌーやボート、乗馬、ハイキング、ロッククライミング、アーチェリーなどがあり、現地のモニターさんに指導していただく。「大自然・マナー・協力・責任・スペイン語」をキーワードに、様々な活動を通して人に対するやさしさや、感謝の気持ち、高学年としての責任を再認識し、充実した自然教室にすることをねらいとしている。



ヌリア自然教室でのハイキング

事前学習として、一人ひとりがテーマを決めて調べ学習に取り組んだ。内容は、上記の現地での活動において注意することやうまくするコツ、ヌリアの歴史などであった。事前学習を通して、各活動における目標を意識しながら取り組むことができ、意義ある充実した活動につなげることができた。

当日は、様々な活動を通して、単にその活動を体験するだけでなく、モニターさんとの会話をひろげ、スペイン語で会話をする機会をつくることもできた。子どもたちは、今回の宿泊学習を通してスペインの人々と話を

するだけでなく、同じ時間を過ごし、同じ経験をともにすることで生まれる一体感を体験することができた。この一体感を味わうことこそが本当の意味でのコミュニケーションが構築できたことを示していると思う。

文化や生活様式がちがっても、何か1つでも共通の経験をすることで得ることができる一体感。日本で生まれ育ち、現在は日本人学校に通う子どもたちには、外国語を学習して実際に会話をしたり、ジェスチャーなどを使って自分の気持ちを伝えたりすることがお互いの理解につながることをもっとたくさんの場面で実感してほしいと思う。

## (2) 低学年：イシドロ校来校、訪問

バルセロナ日本人学校の低学年は、毎年、バルセロナ市近郊にあるイシドロ校の子どもたちとの交流を行っている。イシドロ校の子どもたちは、日本の祝日である「子どもの日」に合わせて来校するため、日本人学校の玄関先にこいのぼりを飾って迎えている。

この交流活動のねらいは、子どもたちの学年に応じて以下の4点としている。

- ①イシドロ校の子どもたちと親睦を深めることができる。
- ②すすんで会話をしたりいっしょに遊んだりする中で、お互いのよさを見つけようとするすることができる。
- ③簡単なスペイン語を使って自己紹介をしたり、表情やしぐさから相手の思いを感じ取ったりすることができる。(3年生)
- ④簡単な挨拶やジェスチャーを交えながら、伝える・聞くといった伝え合う活動を楽しむことができる。(1・2年生)

創作活動(こいのぼりづくり)、スポーツ活動(障害物リレー)、音楽活動(ロンドン橋、ジャンケン列車)と3つのグループに分かれ、日本人学校の子どもたちが活動内容を企画し、当日の運営まで行う。教室前廊下には、写真付きの自己紹介カードを掲示し、グループと名前が分かるようにしておくことで、当日、誰にどんな話を話しかけようか考えるきっかけにもなっている。

また、軽食の時間を使って、スペイン語や英語、ジェスチャーによるコミュニケーション活動の時間を設けた。保護者のみなさんには、ボランティアとして軽食づくりのお世話をいただいた。子どもたちは、改めて会話をするというような場面よりも、軽食を食べながらや、サッカーやあそびなどの体を動かす活動を通してより深く交流することができた。

秋のイシドロ校訪問では、5月の来校時と同様に、事前にイシドロ校の友だちの自己紹介カードを見ながら会話したいことや質問を考え、スペイン語で練習をした。5月にいっしょに活動をしたり、話をしたりした子の自己紹介カードを見つけて、「もう一度話をして友だちになる」と前向きな気持ちで訪問しようとする子どもがたくさんいた。

当日は、事前に練習していたスペイン語を使うだけでなく、英語やジェスチャーを使ってコミュニケーションを図っていた。

昼食は、イシドロ校の給食をいただいた。日本人学校での週1回の給食とはちがいで、学年ごとにランチルームへ行き、調理や盛り付け、食事指導も専門の担当者が行う。高学年の子どもたちは、飲用水のお世話をしてくれていた。食べ終わった子どもたちから部屋を出て外へ遊びに行くが、ここでも専門のモニターさんが遊びを教えてくれたり、危険がないように見守ってくれたりしていた。スペインの学校では、昼食の時間が日本とちがっているため、午後の授業開始時刻が15時となっている。午前中の授業が終わる12時ごろから15時ごろまでの過ごし方は子どもによってちがいで、(学校で給食を食べる、家に帰って昼食を食べる)一人ひとりの生活スタイルを大切にしている。

お別れ式の最後には、「かたつむり」の歌を日本語とスペイン語で歌い、イシドロ校の子どもたちは、楽しそうな表情で、手拍子をしながら聴いてくれていた。



現地校交流での集合写真

### 3. 成果

スペインの子どもたちはとても明るく、誰に対しても「オラ！」とにこやかに、とても明るい表情であいさつをしてくれる。日本人学校の子どもたちはどうだろうか？

「たくさん友だちをつくりたい」「今まで学習したスペイン語を話してみたい」と、気持ちでは積極的なところがたくさんあるのだが、その気持ちを行動にうつすとなると、子どもたちにとって難しい課題となっている。言葉が通じることや、コミュニケーションが成り立つことの喜びを低学年の時から経験させ、「交流会が楽しい」「もっとたくさん友だちをつくりたい」「スペイン語や英語を今よりもっと話せるようになりたい」という気持ちを高めていくことが大切である。

今回の日本人学校での経験を活かし、子どもたちが様々な場面で、自信を持って自分を表現する力を育てていきたい。